

1 粗飼料と濃厚飼料

乳牛の飼料には栄養学的な価値によって、サイレージに代表される粗飼料と配合飼料等の濃厚飼料に分類されます。

(1) 粗飼料

粗飼料とは、乳牛にとって重要な基礎飼料で、**ガサ**があり**センイ**含量が多いという性質を持っています。一般的に、原料となる牧草やサイレージ用とうもろこし等を収穫し、サイレージ化して通年給与しています。

粗飼料に含まれるセンイは乳牛にとって重要な役割を持っています（44ページ参照）。センイ含量の多少により乳牛の採食量が変動します。刈り取り時期が早いほどセンイが少なくエネルギーなどの栄養価が高くなるのが一般的です。

ア 牧草

牧草には様々な種類があります。

根室地方では、経済性や乳牛の嗜好性を考慮し、イネ科（チモシー）とマメ科（クローバ類、アルファルファ）を組み合わせ使っています（写真1、2）。



写真1 チモシー

イ サイレージ

- ・細切サイレージ …牧草・サイレージ用とうもろこしを青刈りで細断し、サイロにつめ密封したもの（写真3、4）
- ・ロールサイレージ…牧草等を刈り取り、予乾後ロールベールにしてからラップフィルム等で密封したもの（写真5）



写真2 白クローバ



写真3 細切サイレージ



写真4 バンカーサイロの例



写真5 ロールベール

いずれも、密封し嫌気状態を保つことで発酵が進み、長期保存が可能になります。1～2ヶ月後、発酵が安定したら開封して給与します。

(2) 濃厚飼料

濃厚飼料は粗飼料とは逆で、**ガサ**がなく**センイ**含量が少なく養分が高いものを言います。

穀類、油かす、ぬか、食品製造かす等たくさんの種類があり、これらを各飼料会社が組み合わせた配合飼料は最も広く使われています（写真6）。



写真6 配合飼料